

オンライン研究会

オルタナティブな説明のために

批判的实在論と オートエスノグラフィーの 接続

10.10 SAT
14:00-16:00
参加無料、途中入退出自由



10月8日（木）
23：59までに
申し込みください



桂悠介
『他者から自己へ』
(晃洋書房、2026年)

オンライン配信

参加希望者に前日までに連絡します

登壇者

桂悠介

(立命館大学授業担当講師)

司会・お問い合わせ先

加藤雅俊（立命館大学教授） mkato@fc.ritsumei.ac.jp

本報告では、質的研究に対して批判的实在論が持つ可能性を提示する。報告者は大学卒業後、一般企業への就職、農業従事、JICA海外協力隊などを経て、大学院に進学した。そのなかで向き合うことになったのは、自分が経験してきたことを踏まえながら、複雑な現実をどのように記述し、説明するのかという問いであった。この問いに応答するための重要な視座となったのが批判的实在論である。批判的实在論は、目に見える出来事や語りの背後にある条件やメカニズム、またそれらが変化していく時間の流れを捉えようとする。報告ではまず、批判的实在論者のマーガレット・アーチャーによる形態生成アプローチから、個々人の経験を、社会構造や文化、人びとの相互行為との関係において論じることの意義を考える。次に、批判的实在論と、研究者自身の経験を前景化するオートエスノグラフィーの接続の可能性を示す。この接続による「クリティカルリアリスト・オートエスノグラフィー」は、単なる個人経験の記述ではなく、複雑な現実や因果関係を含み込むオルタナティブな説明のための実践として位置づけられる。これらを通して、研究分野を問わず、個々人の経験を公共的・学術的な問いへと開いていくことや、より広く質的研究の展開してくための手がかりを提示したい。